三鷹市立第六小学校　令和8年度【算数】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		【現状】 ○具体物や半具体物の操作は、学習の理解に有効であった。 ○T2がいることで個別に声を掛けることができ、取りこぼし児童を減らすことができた。 【課題】 ○単純な計算問題は、スムーズに解ける児童が多いものの、文章問題になると、聞かれていることを捉えたり、正しい単位を付けて答えたりすることが難しい。 ○具体物や半具体物の操作をしながら考えることはできるが、「ちがい」や「おおい」など言葉の違いに合わせて、きちんと区別して動かすことが難しい。	○問題文に出てくる数字を○で囲み、聞かれていることに波線を引くなどして、問題文の内容を、視覚的にも分かりやすくして読み取ることを、継続して指導する。 ○具体物を使用することで、視覚的にも理解につながるようにする。また、実際に用意できないものはICTを活用していく。
第2学年		【現状】 ○加法・減法の基礎的な計算について、８割近くの児童が正確に計算する力がある。 ○具体物を用いた測定等、実感を伴った授業を行うことで、量感覚を身に付けることができた。 【課題】 ○文章問題では、聞かれてることに対して正しく立式すること、単位を用いて回答することに対して課題が見られる児童が多い。 ○繰り下がりを含む減法の計算、時刻と時間について、定着度に大きな差がある。	○問題文の読み方の指導として、出てくる数字や問われていることに線を引くなどの視覚的な指導を継続し、自分で意識できるようにしていく。 ◎加法、減法、乗法の計算力が付くように、百マス計算などを朝学習で行い、定着を図る。（九九マスター、計算マスター） ○計算スキルは、家庭学習として既習内容の復習を行えるように課題を出す。ミライシードは、自分の苦手な単元を中心に取り組めるようにすることで、定着度を高める。 ○自分の考えをもつ時間や、ペア・グループ活動でお互いの考えを聞き合う時間を十分にとり、主体的に取り組む姿勢を育む。
第3学年	【成果】 ○100マス計算の定期的な実施によって基礎的計算力の向上が図られた。 ○文章題は音読を必ずさせて、何を求められているのかを読み取る意識を高めることで、問題を解決することができるようになった。 【課題】 ○文章を読むこと自体に困り感を抱えている子に対してはなかなか指導が行き届かなかった。個別に指導できる時間の確保が課題。	【現状】 ○どの単元においても１００マス計算を授業開始時に取入れ、計算能力の定着を図っている。 ○少人数での進度別学習に主体的に取り組んでいる。 【課題】 ○「はこの形」「長さ、かさ」「時刻と時間」といった２年生での学習内容に関して、定着が不十分である。 ○文章を読んで正確に立式することができない児童が多い。	○既習の学習内容の確実な定着のため、１００マス計算をはじめ復習問題への取り組みを進める。毎時間、単元終了後等、無理のない範囲で進める。 ○問題の意味を理解し、正しい立式と答えを導き出すため、問題文にある数字の意味と関係性を考えさせる発問を意識的に行う。 ○具体物や体験を通して、問題の意味を理解させる。
第4学年	【成果】 ○習熟度に合わせて問題の難易度や取り組む問題数を調整した。学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ○既習事項を生かして課題に取り組む姿が多くみられた。 【課題】 ○学んだことを日常生活の中で使う意識をもたせる必要がある。 ○文章題を正しく理解していない様子の児童が見られる。	【現状】 ○習熟度別に少人数で学習に取り組むことで、苦手意識をもつ児童も前向きに取り組んでいる。 ○基本的な計算方法は定着しているが、個人差がある。 【課題】 ○問題文を正しく理解できていない児童が多い。 ○計算方法、筆算方法を分かりやすく説明することに難しさ感じている児童が多い。	◎問題文の内容を可視化したり、立式する際に図を組み合わせたりする。 ○授業の導入や展開前半に、新単元に繋がる内容(例:「小数のかけ算」だったら、「2けたのかけ算)を扱うことで、理解度が高まるようにする。 ○既習内容を活かしたり、他の計算方法と比べたりできた場面を取り上げ、児童が見方・考え方を働かせられるように促す。
第5学年	【成果】 ○基本的な計算力が定着してきた。 ○自分の考えを立式や図表で表現する力が高まってきた。 【課題】 ○問題文で何が問われているのか、読み取る力に個人差がある。	【現状】 ○意欲的に取り組む児童と授業に集中することが難しい児童との二極化が見られる。 ○基本的な四則計算が定着している児童が多いが、個人差が大きい。 【課題】 ○計算ミスや単位忘れといった注意をすれば改善できる誤答が多い。 ○問題文を正確に捉えていない児童がいる。 ○図形領域が苦手な児童が多い。	○導入や問題提示を工夫し、児童の意欲を引き出す。身の回りの生活で学んだことを活用できる場面を示したり、他教科の学習に生かしたりする機会を増やす。 ◎自分の考えをノートに書く、友達と伝え合う時間を設け、主体的な学習態度を養うようにする。正確に計算したり答えを求めたりするよう、継続して指導する。 ○文章の読み取りが苦手な児童には線を引かせたり、図をかかせたりして問題を把握する力を付ける。 ○三角定規や分度器の使い方、展開図、面積の求め方などの基本的な習得を図る。
第6学年	【成果】 ○習熟度別に学習を進めたことで児童の実態に合った授業を展開できた。 ○自分の考えを立式や図表で表現する力が高まってきた。 【課題】 ○ミライシードを活用した既習事項の復習を行ったが、定着までには至らなかった。	【現状】 ○自分の考えを言葉や式、図に表すことができる児童が多い。自分と友達の考えを比較し、学びを深めようとする児童が増えている。 【課題】 ○数と計算領域が定着しきっておらず、四則混合の計算や計算の決まり、小数点を含めた計算の基本的な習得を図る必要がある。 ○文章問題から、数量関係を捉えられず、正しく立式できない児童がいる。	◎一人ひとりの児童に合った学習ペースで授業を進める。単元ごとに児童の実態、学力の低い児童の情報を共有し、授業で扱う問題や進め方、家庭学習の内容を検討する。 ○家庭学習で既習事項の復習をさせる。ミライシードで、正答率の低い単元を中心に取り組ませ、効率よく学習内容が定着できるようにする。必要に応じて他の学年の学習内容（特に計算領域）についても扱わせる。 ○問題場面を正確に把握できるよう表や図などの表現方法を継続して指導する。